

あしたから頑張れず



止田卓史

止田 「ということで、止田です。」
卓史 「卓史です。」
止田・卓史 「二人合わせてセルゲイ・ブブカです。」
セルゲイ 「…えーと、このネタすごく昔にやった気がしますけど。」
ブブカ 「10年位前にやりましたね。ま、いいじゃない。」
セルゲイ 「ま、いいか。で、なんで今FF7なんですか？」
ハズ 「ん？そりゃあ、おめえ…え〜と…ジャンケンよ!!」
ギル 「何も考えてないんかい。つーかなんでハーン兄弟よ。」
ハズ 「え？好きだから。」
ギル 「話と流れと俺たちの友情の全てをぶった切っておいて、言うことはそれだけか。」
ハズ 「金色のファルコを道連れにできるのだ、笑って見送れい!!」
ギル 「話聞けよ。」
ハズ 「あーもー、ごちゃごちゃうるさいな！好きだからで何が悪いんだよ！」
ギル 「つまり、それが今回のネタがFF7な理由ですか。好きだけど古いものをあえて描こうと？」
ハズ 「FF7？」
ギル 「知らんのか。」
ハズ 「ティファのおっぱい物語？」
ギル 「東武ワールドスクウェア・エニックスに失礼だろ。」
ハズ 「ここは華麗な玉手箱。」
ギル 「反省の色なしか。つーか日本人の8割は置いてけぼりだな。」
ハズ 「えー、冬といえば雪、雪といえばスノーボー、スノーボーといえばFF7です。」
ギル 「わーい、すごいスルーっぷりだよ、この人。」
ハズ 「だから今回の本がFF7になった…ってことはないんですが。」
ギル 「ま、なんつーかすごいゲームでしたな。3枚組みだったし。」
ハズ 「…正直言うとアドベントチルドレン見るまで、内容を忘れてたんですが。」
ギル 「もっと正直に言うとアドベントチルドレン見ても全部は思い出せなかったんですが。」
ハズ 「ティファのかい乳はすっかり思い出しました。」
ギル 「『乳はゲームより強し。うーん、こいつは名言だな』って感じなのか。」
ハズ 「とにかく乳。」
ギル 「お前のほうが失礼だよ。」
ハズ 「すいません。」
ギル 「まあいいや。どうでも。とにかく乳。」
ハズ 「明日も乳。」
ギル 「どこまでいっても乳。」
ハズ 「どっちを向いても乳。」
ギル 「乳とYシャツと私。」
ハズ 「荒野の乳人。」
ギル 「所変われば乳変わる。」
ハズ 「少年よ大乳を抱け。」
ギル 「チチキトクスグカエシ。」
ハズ 「乳×乳=49。」
ギル 「振り向けばそこに乳。」
ハズ 「玄関開けたら2分で乳

ハズ・ギル「乳—————っ!!」

ハズ 「つーか、いつまで俺ハズなんだよ」
ギル 「お前のせいだつーの。」
ハズ 「つーか、そもそも俺誰だっけ？」
ギル 「お前卓史。俺止田。」
卓史 「うーん…なんか、俺がお前な気がするんだよ。」
止田 「マジで!?俺も、俺がお前な気がしてたんだよ。」
卓史 「つーか、実は二人とも止田卓史なんじゃね？」
止田 「二人で止田卓史じゃね？」
卓史 「ああ…ようやく全てを思い出したよ…。」
すがすがしい気持ちだ。」
止田 「それじゃ…。」
卓史 「いくか…。」
止田・卓史 「フュ—————ジョンッ!!」

というわけで、楽しんで頂ければ幸いです。

2006.1.29/ 止田卓史



「それでは憐れな囚われの
ティファ・ロックハートさんには
実験の被験者になってもらいまーす」

「それにしても
いやらしい乳ですねー」

「そうですねー」
「いいですねー」

ぎゅ

「くっ…結局
そんなこと…しか
やることないの？」

「くッ!!」

「はい生意気な
乳女にはとりあえず
注射打つときまーす」

は…あ…

むぎゅ

「くだらない
連中だ！わー」

「異議なーし」

「なッ?! やめ……!」

「ひぐッ!!」



「ひっ!! あっ...あ
何コレ...やだッ...
おっばい...やだ...やだッ...」

「やあああああッ」

「はい、乳汁発射」

「はあはあ...」

「がくがく」

「あッ」

「あッ」

「エロい肉体の人ほど
薬、よく効きまーす」

「あッ」

「あッ」

「ひん...あッ...やだ...
やめて...ちく...び...やだ...」

「乳の脂肪がしっとりねっとり
ちんこにまとわりついてきますな」

「はあ...
はあ...」

「じゃ早速こっちの発射も
手伝ってもらおう方向で」

「だめ...おっばい...
だめ...」

「おーすばらしい
乳肉庄」

「おっばい...の先っば
...やだああ...」

「あッ」

「あッ」

「あッ」

「ひはああああッ!!」

「ははははッ!!」

♡♡♡

「はい、すっかり
おとなしくなっちゃった
ティファさんですがー」

「……あ……う……」

「いけませんねー」
「元氣出じてきましょーよ」

「じゃ気合入れるために
電気でも流してみまじょーか」

「!?」
「きゅん」

「はあ……
あ……」

「あーずいぶんおっぱいも〽まさに乳牛ですな」
はれ上がってききましたねー」

「あふ...あ...う...
...お...ぱい...じん...じん
する...よ...う」

「あーもわかんね
何言ってるかわかんね」

「え？ 乳だけじゃなくて
ケツ穴やらまんこが
さみしいって？」

「あ...ん...あ...ふあ...」

「じゃ早速」

「ひややああふああッ」

あ

ドッ

あき

「やーやーそれは気付かず、
申し訳ないことしましたな」

「いやあこんな愚息で
お喜び頂け誠に光栄ですなあ」

16/6/30!!

「じゃーこつちも
ぺろぺろしましようか」

「んむう…うふ…うん」

「いやー2本もくわえこんじゃって
ティファちゃんは欲張りですねー」

「ん…あッあッあッ…ッ」

「ずいぶん気持ち
よさそうですねー」

「ティファちゃんずいぶん
こなれちゃいまじたね」

「ちんこ好きになった？」

「ぬーやーん…ふ…ふあ…い…」

「もっとはつきり言えよ」

「ふ…あい…ちん…ほ…
…す…すきれ…すう…
おっぱい…も…おま…んこ…も
…きもち…いい…ですう…」



「じゃ気持ちいい
おっぱいで
乳内射精ね」

「味はどうだ？」

「はあ...
はあ...」

「ふあい...せーえき...とても...
おい...ひい...れす...」

「じゃあ是非膈内でも」

「ふあッ...う...」

ちんぴッ...きまぢ...い
...いは...お...」

「ふひやうッ...あ...う...いよ...う」





「あがあがあがあがッ!!」

はる...あま...

あがあが

あがあが

「やべ ちよつと薬
入れすぎちつたな」

「化けモンだよ これじゃ」



「捨てちまうか」

「んだな」

あしたから頑張る

2006.1.29